

スマートシティに取り組む**地方公共団体、協議会等の取組を支援**するため、先行してスマートシティに取り組む地域における成功・失敗体験等を踏まえつつ、スマートシティの**意義・必要性、導入効果、及びその進め方等**について、今年度中に**ガイドブックとしてとりまとめ**。（2019年度作成のリファレンス・アーキテクチャの成果も取込み）

I 構成（案）

U 1章 スマートシティの基本的考え方

- ・スマートシティに取り組む意義と必要性
- ・スマートシティの構成サービスと導入効果
環境、防災、健康、まちづくり等、各分野や分野横断的な取組について、都市類型ごとに事例を含め詳説

U 2章 スマートシティの実現に向けて

- ・スマートシティに取り組む上での基本コンセプト
課題・ビジョンオリエンテッド、市民参画、分野間・都市間連携 等
- ・初動段階から実施・運営段階までのプロセス
- ・望ましい推進体制のあり方
- ・スマートシティを進める上での課題とその対応
 - 機能的、能動的な推進体制の構築
 - 財政的持続性の確保
 - 関係者間の合意形成
 - スマートシティの評価
 - データ連携の確立 等SIP成果、スーパーシティのデータ連携基盤検討と整合 等

I 策定主体

内閣府、総務省、経済産業省、国土交通省

I 今後の検討会予定

2月1日 第1回検討会

2月16日 第2回検討会（中間報告）

3月8日 第3回検討会

3月29日 第4回検討会（最終結果）

以降、作業とりまとめ（ガイドブック第1版）

4月以降 改版予定

スマートシティ・ガイドブックの検討体制

基本的 考え方

- 検討会有識者は、**都市マネジメント分野**と**デジタル分野**からご出席
- **好事例と思われる地域**を各省事業から抽出し、検討会の場で該当自治体・企業から事例紹介
- 官民連携PFに分科会を設置し、当該分科会における議論を検討会に反映

検討会

検討会 有識者

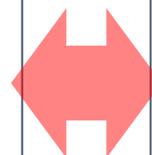
- 石田 東生** 筑波大学 名誉教授 [**交通計画、都市計画**]
- 革新的環境イノベーション戦略検討会委員 他
- 川島 宏一** 筑波大学 教授 [**自治体オープンデータ**]
- スマートシティ推進の今後の在り方に関する検討会（総務省）委員 他
- 越塚 登** 東京大学 教授 [**AI、データシステム**]
- データ連携検討会座長 他
- 宍戸 常寿** 東京大学 教授 [**個人情報保護**]
- 中川 雅之** 日本大学 教授 [**公共経済、都市経済**]
- スーパーシティ有識者懇談会委員 等
- 東 博暢** 日本総合研究所 プリンシパル [**スタートアップ、データ活用**]
- ICTまちづくり推進会議WG委員 他
- 日高 洋祐** MaaS Tech Japan 代表取締役 [**Maas社会実装**]

関係団体

- (一社) 日本経済団体連合会
- (一社) スマートシティ・インスティテュート [**国内外事例・人材育成**]

官民連携PF

- Ⅰ ガイドブックを検討する分科会を新たに設置し、会員・オブザーバから希望者を募る
- Ⅰ 検討会と並行して分科会を運営し、現場の取組事例や課題、知見などを収集し、ガイドブックに反映
- Ⅰ 意見収集にはオンラインツール「Decidim」を活用
(一社)コード・フォー・ジャパン 提供



(参考) スマートシティガイドブック分科会 第1回 開催概要

- 主催：スマートシティ官民連携PF事務局（内閣府・総務省・経済産業省・国土交通省）
- 日時：2021年1月27日(水) 10:00～12:00（120分） Web開催
- 議事：説立趣旨およびガイドブック骨子の説明、参加者からの取組事例発表、グループディスカッション
- 参加者：61団体 92名が参加（自治体11団体、民間企業50団体）

第1回分科会で出た主な意見

<スマートシティの意義・必要性>

- ・現状抱える課題とスマートシティのビジョンとの繋がりが重要。
- ・住民目線・主体のビジョンの策定が必要。
- ・自治体、住民に加えサービサーが入ることで、課題を相談できる体制ができることが一番のスマートシティのメリットと感じる

<機能的、機動的な推進体制の構築>

- ・行政、民間、住民の役割分担が重要
- ・協議会という形式ではなく、その持続可能性が重要。利益を生み出し、持続性を持たせる体制の構築が重要。
- ・各企業が強みを活かし何をやりたいのか、何を担うのかを明確にした上で、協議会として共有することが実行力のある組織のためには必要。
- ・スマートシティアーキテクト等体制に必要なスキルセットを定義できるとよい。

<ガイドブック全般にかかる意見>

- ・具体的なスマートシティビジョンを地域で共有できる事例が欲しい。
- ・進め方のステップや体制について、読み手が自身の都市規模や特性、取組段階に合わせて選べるよう、複数パターン示されると良い。

今後の予定

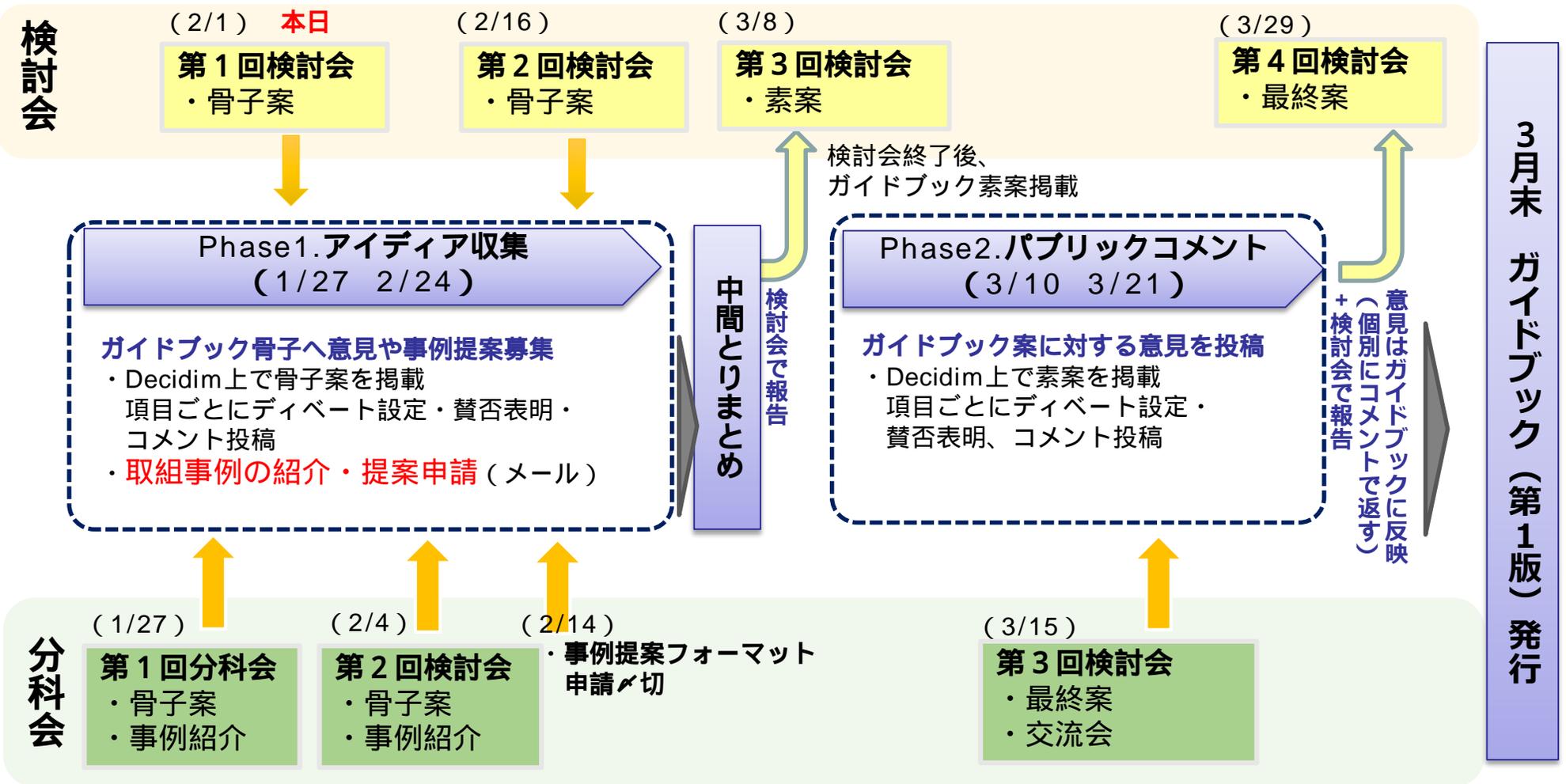
分科会の意見を集約しガイドブックに反映

- ・3月中旬まで、検討会と並行する形で全3回の会合を開催予定
- ・オンライン上のプラットフォーム「Decidim」を活用し、より幅広い意見や提案の募集を行う



今後の進め方

- 2つのPhase（アイデア収集（1-2月）、パブコメ（3月））を経て3月末に第1版発行
- 骨子案・本文案はDecidim上で共有し、検討会・分科会メンバーからコメント投稿



- ・分科会で出た意見は、事務局でDecidimに投稿 発言意図と違った場合はコメントで補足説明
- ・メールで提出いただいた事例は、とりまとめののち、Decidimに掲載 + 検討会で紹介
優れたものは、ガイドブック本文中に掲載

基本情報		該当するガイドブック骨子の部分	
事業名	スマートシティ〇〇	章・ページ	〇章〇ページ
対象地区	〇〇市全域、〇〇地区 等	項目
実施主体	団体名： 構成員：	提案したい 取組の概要
実施時期	20XX年		
HP等	http://.....		

取組概要

ガイドブック骨子に該当する取組のポイント

スマートシティの取組
全体の概要について、
図と簡潔な文章で記載

特に、ガイドブックと親和性が
ある取組のポイントについて、
図と簡潔な文章で記載

基本情報		該当するガイドブック骨子の部分	
事業名	スマートシティ会津若松	章・ページ	2章3(1)6ページ
対象地区	会津若松市全域	項目	構成員を巻き込む工夫
実施主体	団体名： 構成員：	提案したい 取組の概要	スマートシティの取組の一環として、首都圏等のICT関連企業が機能移転できる受け皿としてオフィス環境をH31年4月に整備。ICT関連企業が1つのビルに集結することでコラボレーション連によるサービスの創出を目指す。
実施時期	20XX年		
HP等	http://・・・		

取組概要

- ICTを健康や福祉、教育、防災、エネルギー、交通、環境など、様々な分野で活用し、新たなしごと・雇用の創出や生活の利便性向上を図る。



個人の属性（年齢、子どもの有無など）に応じたおすすめ情報や、右側に記載するようなサービス等を一体的に表示する「会津若松+（プラス）」



「学校だより」や「緊急のお知らせ」、「学校での活動の様子」など、学校情報をお知らせする「あいづっこ+（プラス）」



健診や予防接種履歴等の市で保有する情報や、子育て関連のお知らせを表示する「母子健康情報サービス」

サービスの利用にあたっては、事前に本人同意を取得する「オプトイン型」を徹底

ガイドブック骨子に該当する取組のポイント



- スマートシティの取組の一環として、**首都圏等のICT関連企業が機能移転できる受け皿としてオフィス環境をH31年4月に整備。**

オフィス棟

ICT関連企業が1つのビルに集結することでコラボレーション連によるサービスの創出を目指す。各オフィスのプライベートな空間のほかサロン・ラウンジも設置。R2年10月時点で28社が入居。

交流棟

地域からイノベーションを起こすことを目指し、市民・大学・企業との交流を促す多目的空間として活用可能。

■出典：スマートシティAICTについて 施設概要
<https://aizu-aiyumu.co.jp/>

■出典：会津若松市HP
<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2016052600011/>